

【企業動向調査（製造業）概況】

2025年10月～12月期の企業動向調査（市内製造業96社）を行った結果、業況判断指数D Iは22.0ポイントとなりました。

前期調査結果（2025年7月～9月：3.4ポイント）と比較して18.6ポイント好転しました。

その他経営上の問題については、「原価上昇や賃金上昇などによる経費高騰が、販売価格の転嫁に追いつかなくなっている」、「採用が困難になっている」「高卒新卒人材に特化した支援制度の必要性」などの意見がありました。

1 業種別の業況判断前期比D I

業種	前期比D I	前期との差
食品	0.0	▲ 25.0
金属	6.7	6.7
一般機械	30.8	52.2
電気機械	22.2	2.2
木材家具	20.0	20.0
その他業種	45.4	27.2

2 業種別の次期予想D I（2026年1月～3月）

次期予想は6.9ポイントで、今期調査結果(22.0)より、15.1ポイント悪化する予想となりました。

業種	次期予想D I	今期との差
食品	0.0	0.0
金属	13.3	6.6
一般機械	▲ 7.7	▲ 38.5
電気機械	37.5	15.3
木材家具	▲ 20.0	▲ 40.0
その他業種	9.1	▲ 36.3

3 経営上の主な問題点

	問題点	割合
1位	人材不足（技術者等質的なもの）	57.6%
1位	原材料・仕入品単価の上昇	57.6%
3位	労働力不足（量的なもの）	35.6%
4位	受注の減少	33.9%
5位	納期の短縮	20.3%

企 業 動 向 調 査
【 2025 年 10 月～12 月期 <4 期> 】

【調査概要】

須坂市産業振興部産業連携開発課では、市内製造業の景気動向を探る手段として、年4回市内企業を対象にアンケート調査を実施している。

今回は2025年10月～12月期<4期>の業況について調査した。

【調査実施要領】

実施時期 2025年1月

対象企業 須坂市内または事業所を有する製造業企業96社

回答企業数 59社（回答率61.5%）

【調査結果】

自社業況判断（DI = 好転 - 悪化）

	好転	悪化	DI	比較
前期比	37.3% (前期 21.7%)	15.3% (前期 18.3%)	22.0	前期より 18.6 ポイント 好転
前年同期比	36.2% (前期 26.7%)	19.0% (前期 20.0%)	17.2	前期より 10.5 ポイント 好転
次期予想	19.0%	12.1%	6.9	今期より 15.1 ポイント 悪化と予想

受注引合（DI = 増加 - 減少）

	増加	減少	DI	比較
前期比	37.3% (前期 16.7%)	18.6% (前期 21.7%)	18.7	前期より 23.7 ポイント 増加
前年同期比	36.2% (前期 20.0%)	17.2% (前期 28.3%)	19.0	前期より 27.3 ポイント 増加
次期予想	20.7%	15.5%	5.2	今期より 13.5 ポイント 減少と予想

生産量（DI = 増加 - 減少）

	増加	減少	DI	比較
前期比	32.2% (前期 18.3%)	15.3% (前期 18.3%)	16.9	前期より 16.9 ポイント 増加
前年同期比	31.0% (前期 21.7%)	17.2% (前期 23.3%)	13.8	前期より 15.5 ポイント 増加
次期予想	24.1%	12.1%	12.0	今期より 4.9 ポイント 減少と予想

原材料・仕入品単価 (D I = 低下 - 上昇)

	低下	上昇	D I	比較
前期比	0.0% (前期 0.0%)	52.5% (前期 32.8%)	▲ 52.5	前期より 19.7 ポイント 悪化
前年同期比	3.4% (前期 1.7%)	60.3% (前期 53.4%)	▲ 56.9	前期より 5.2 ポイント 悪化
次期予想	0.0%	43.1%	▲ 43.1	今期より 9.4 ポイント 好転と予想

製品販売価格 (D I = 上昇 - 低下)

	上昇	低下	D I	比較
前期比	25.4% (前期 11.9%)	1.7% (前期 3.4%)	23.7	前期より 15.2 ポイント 上昇
前年同期比	41.4% (前期 23.7%)	1.7% (前期 3.4%)	39.7	前期より 19.4 ポイント 上昇
次期予想	24.1%	1.7%	22.4	今期より 1.3 ポイント 低下と予想

資金繰り (D I = 好転 - 悪化)

	好転	悪化	D I	比較
前期比	6.8% (前期 3.3%)	15.3% (前期 16.7%)	▲ 8.5	前期より 4.9 ポイント 好転
前年同期比	10.3% (前期 8.3%)	19.0% (前期 16.7%)	▲ 8.7	前期より 0.3 ポイント 悪化
次期予想	8.6%	12.1%	▲ 3.5	今期より 5.0 ポイント 好転と予想

所定外労働時間 (D I = 増加 - 減少)

	増加	減少	D I	比較
前期比	16.9% (前期 13.3%)	8.5% (前期 13.3%)	8.4	前期より 8.4 ポイント 増加
前年同期比	19.0% (前期 15.0%)	12.1% (前期 13.3%)	6.9	前期より 5.2 ポイント 増加
次期予想	13.8%	10.3%	3.5	今期より 4.9 ポイント 減少と予想

収 益 率 (D I = 上昇 - 低下)

	上昇	低下	D I	比較
前期比	15.3% (前期 10.0%)	22.0% (前期 20.0%)	▲ 6.7	前期より 3.3 ポイント 上昇
前年同期比	10.3% (前期 11.7%)	27.6% (前期 28.3%)	▲ 17.3	前期より 0.7 ポイント 低下
次期予想	8.6%	19.0%	▲ 10.4	今期より 3.7 ポイント 低下と予想

経営上の問題点 (複数回答)

	問題点	割合	前回比較
1位	人材不足 (技術者等質的なもの)	57.6%	→
1位	原材料・仕入品単価の上昇	57.6%	→
3位	労働力不足 (量的なもの)	35.6%	↑
4位	受注の減少	33.9%	↓
5位	納期の短縮	20.3%	↑
6位	同業他社との競争激化	16.9%	↑
7位	技術力の不足	10.2%	↓
8位	製品販売価格の低下	6.8%	↑
8位	為替相場の変動	6.8%	→
10位	金融難	3.4%	→
11位	取引先の海外シフト化	1.7%	→
12位	人員過剰	0.0%	→

※ 「↑」 前回の順位から上昇 「→」 前回の順位から変動なし
「↓」 前回の順位から下降

業種別自社業況判断 / 食 品

	好転	悪化	D I	比較
前期比	16.7% (前期 25.0%)	16.7% (前期 0.0%)	0.0	前期より 25.0 ポイント 悪化
前年同期比	16.7% (前期 25.0%)	16.7% (前期 0.0%)	0.0	前期より 25.0 ポイント 悪化
次期予想	16.7%	16.7%	0.0	今期より 0.0 ポイント 好転と予想

業種別自社業況判断／金属機械

	好転	悪化	D I	比較
前期比	26.7% (前期 12.5%)	20.0% (前期 12.5%)	6.7	前期より 6.7 ポイント 好転
前年同期比	40.0% (前期 25.0%)	20.0% (前期 25.0%)	20.0	前期より 20.0 ポイント 好転
次期予想	13.3%	0.0%	13.3	今期より 6.6 ポイント 好転と予想

業種別自社業況判断／一般機械

	好転	悪化	D I	比較
前期比	38.5% (前期 0.0%)	7.7% (前期 21.4%)	30.8	前期より 52.2 ポイント 好転
前年同期比	23.1% (前期 14.3%)	30.8% (前期 14.3%)	▲ 7.7	前期より 7.7 ポイント 悪化
次期予想	7.7%	15.4%	▲ 7.7	今期より 38.5 ポイント 悪化と予想

業種別自社業況判断／電気機械

	好転	悪化	D I	比較
前期比	44.4% (前期 40.0%)	22.2% (前期 20.0%)	22.2	前期より 2.2 ポイント 好転
前年同期比	62.5% (前期 50.0%)	25.0% (前期 20.0%)	37.5	前期より 7.5 ポイント 好転
次期予想	37.5%	0.0%	37.5	今期より 15.3 ポイント 好転と予想

業種別自社業況判断／木材家具

	好転	悪化	D I	比較
前期比	40.0% (前期 40.0%)	20.0% (前期 40.0%)	20.0	前期より 20.0 ポイント 好転
前年同期比	20.0% (前期 0.0%)	20.0% (前期 40.0%)	0.0	前期より 40.0 ポイント 好転
次期予想	20.0%	40.0%	▲ 20.0	今期より 40.0 ポイント 悪化と予想

Q10 日銀松本支店が12月15日に発表した、企業短期経済観測調査(短観)によると、全産業の業況判断指数(DI)は、前回調査(9月)と比較して、3ポイントプラスとなりました。製造業は、マイナス3ポイントと6ポイント好転、非製造業は、プラス15ポイントと2ポイント好転しました。自社の景況感をどのように感じておられますか。

好転している	11.9%
今はないが、今後好転が見込まれる	20.3%
変わらない	49.2%
今はないが、今後悪化が見込まれる	10.2%
悪化している	8.5%

※四捨五入の関係で、合計が100にならない場合があります。

Q11 市が実施している支援事業で、ご存知のものをご回答ください。(複数選択可)

用地取得、建物等設置、空き工場等の活用など企業立地に関する補助金	23.7%
公害防止施設設置、工業系用途地域への移転などに関する補助金	8.5%
寮、福利厚生施設設置などに関する補助金	6.8%
先端設備導入に係る固定資産税の軽減措置	20.3%
企業間の共同研究に関する補助金	13.6%
研修参加、社内研修の開催に関する補助金	15.3%
弁護士など専門家の派遣	3.4%
製品の安全性の検証等に関する補助金	8.5%
特許申請、新技術、新製品の開発等に関する補助金	10.2%
展示会等への出展に関する補助金	18.6%
企業紹介や技術伝承を目的とした映像作成に関する補助金	3.4%
農商工観連携による事業創出への補助金、貸付金	5.1%
「産業フェア in 信州」等における共同出展	25.4%
企業のDX推進やデジタル人材育成に関する支援	20.3%
障がい者雇用の奨励金	15.3%
中小企業退職金共済加入の奨励金	20.3%
障がい者作業施設等に関する補助金	6.8%
奨学金を返済する従業員の手当てに関する補助金	8.5%
勤労者互助会の運営	15.3%

Q12 特に支援を受けたいものがあれば教えてください。(複数選択可)

新工場等の設置に関する補助金	0.0%
販路開拓（出展等）に関する補助金	13.6%
産業フェア等への他企業との共同出展（市及び商工会議所の企画・とりまとめ）	10.2%
研修に係る費用等人材育成に関する支援	18.6%
製品開発や特許取得に関する支援	10.2%
DX 推進やデジタル人材育成に関する支援	11.9%
福利厚生や障がい者雇用に関する支援	10.2%
その他（内訳：物価や賃金上昇などを補填する補助金、海外子会社向けなどに使える補助金）	3.4%

Q14 その他経営上の問題についてご記入ください。

- 工場設置条件の見直しと緩和
- 原価上昇や賃金上昇などによる経費高騰が、販売価格の転嫁に追いつかなくなっている。価格転嫁も現状はしにくい傾向にあり、価格を上げれば他社に発注が流れる(価格の安い業者へ移る)「価格競争」へとシフトしている顧客が増えてきている感じがあります。今後の価格転嫁が望めず経費の上昇が止まらないのであれば、中小企業の未来は暗いと考えます。政府等は中小企業の未来を明るくするような政策を望みます
- 人が足りません。人材確保の観点から、下記ご提案申し上げます。現在実施されている移住支援も素晴らしいですが、更なるインパクトを持たせるため、「高卒新卒人材に特化した支援制度」はダメでしょうか。具体的には、県外から須坂市内の企業へ就職を希望する高卒者を対象に、家賃の大部分を市と企業が共同で負担し、無償または格安な価格で住居を提供できないでしょうか。対象を「高卒」に限定することで、若返りを図る須坂市の姿勢を全国に発信できるのではないかと考えています。就職フェアにおいても、「高校生、生まれ！須坂市は高卒の一人暮らしを応援します！」と打ち出し他自治体との差別化を図りマスコミ取材が来るなど話題性も十分に期待できていると感じています。須坂市役所にもマスコミが押しかけ担当の皆様が“全国デビュー”される姿が想像できます。ただ窓口は少しイメージを……。若い人材が集まり、まちと企業が活気づく——一人暮らしを始める町すぎか！何卒よろしくお願ひ申し上げます。人を！とにかく人を！
- 工場移転をしたいが資金が無い
- 便乗値上げもあるのではないかと？仕入れ価格が上昇、人件費固定費も上昇傾向、賃上げが必須であり、今後の売り上げ目標を引き上げ、コスト削減に挑戦していくが、厳しい状況が続くものと推測される
- 製品の定価を上げたにもかかわらず、仕入れ単価は値上がりが続く。新卒者の採用が厳しい状況。応募が少ない
- 人材不足(労働力、技術力)
- 採用が困難になっている。特に新入社員採用については、企業説明会を主とする方法での採用活動は効果が見込みにくいと感じている。進学希望の高校生が減少し、専門学校生獲得の競争が激しくなったと感じます。
- 原材料価格の高騰が止まらず、製品価格転嫁も進んでいない。価格を転嫁すると客離れにつながるレベルに達しているような気がして、踏み込めない



